

糖尿病患者と新型コロナウイルススワクン

昨年は、新型コロナウイルスに翻弄された1年でしたが、今年3月より医療従事者よりワクチン接種が始まり感染拡大防止が期待されています。感染後の重症化リスクが高い糖尿病患者さんはワクチン接種が推奨されています。新型コロナウイルス（ファイザー）はmRNAワクチンでウイルスの情報の一部を注射し体内で情報をもとにした抗体ができるものです。副反応は接種部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節痛、下痢、発熱などいずれも3日以内に治まるとされています。しかし、重篤なアナフィラキシーなどの副反応もあり、患者さん自身が利益とリスクを正しく認識できるように支援できればと思います。また接種による健康被害は「予防接種健康被害救済制度」が活用できます。申請は居住地の市町村で行い、接種カルテなど申請書類が必要です。給付内容は、治療費（自己負担分）や障害・死亡した場合も受けられます。

コロナワクチンは、2回接種した後、7日程度で発症予防効果が95%とされています。しかし、ワクチン自体も未知の事が多く、またコロナの変異株の発生もあり、今後感染防止策に取り組みが必要があります。

学会・研修会のご案内

- 認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします
- ★第64回日本糖尿病学会年次学術集会・・・第2群4単位  
ライブ配信：2021年5月20日（木）～22日（土）  
オンデマンド配信：6月21日（月）までの予定  
場所：Web開催
  - ★第8回日本糖尿病療養指導学術集会・・・第2群4単位  
日程：2021年7月24日（土）～25日（日）  
場所：国立京都国際会議場  
Web配信あり
  - ★第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会・・・第1群または第2群4単位  
日程：2021年9月18日（土）～19日（日）  
場所：Web開催・川崎市コンベンションホール
  - ★日本糖尿病学会中国・四国地方会第59回総会・・・第2群4単位  
日程：2021年10月22日（金）～23日（土）  
場所：岡山コンベンションセンター
- ★Web開催の単位申請については、日本糖尿病療養士認定機構のホームページでも確認ください。



ウイズ・コロナ時代における看護相談

香川県立中央病院 慢性疾患専門看護師・糖尿病看護認定看護師 浪尾路代

当院では週に2日透析予防指導を中心に看護相談を行っています。コロナ禍での感染対策として、面談室入り口ドアを開け、廊下から見えないように白板を移動させ、常時換気を行いつつながら面談を行っています。面談後は机椅子の消毒を行っています。面談場所がレストラン前なのでパンの良い匂いが漂ってきて屋前の面談に良い環境と言えないかもしれませんが、これまでの面談と違って、コロナについての話から始まる事が多くなりました。また、糖尿病患者さんはコロナによる重症化リスクが高いとの報道やステイホームにより、家に閉じこもりがちになった方が多くいます。食事療法とともに、室内でいかに体力、筋力維持をするかについての相談、助言を毎回しています。廊下でのウォーキングや椅子に座った運動、天気の良い日に庭で植木の世話など患者さんの現状にに応じて行えること、継続できることを話し合い助言しています。また、県内の感染状況に応じて外出や屋外でのウォーキングなどについても話しています。

また、ウイズ・コロナが続きそうですが、感染対策を講じながら糖尿病患者さんの自己管理行動について相談、助言できるようにしていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症流行前後における糖尿病看護の変化と工夫  
とみおか内科クリニック 日本糖尿病療養指導士 五味美佐子

昨年2020年の年明けと共に新型コロナウイルス感染症が、全国的に広がり、当クリニックでは2月から感染対策に取り組んできました。まず取り組んだのは接触を回避するために、トイレ横の入口ドアを解放し換気に努め、多くの患者が触れる展示物や資料、おもちゃ、本等の撤去を行いました。そしてドアノブや手すり、椅子、ソファ等の消毒を行いました。待ち時間の混雑を回避するため、予約の調整、尿検査、心電図、頸部エコーなどの検査を延期または中止、OGTT検査も予約の少ない日に実施、離れた場所で待機してもらうよう配慮しました。診察も短時間で行い、場合によっては薬のみの対応を行いました。玄関前で防護服もときの合羽を着て検温、問診後、発熱及び風邪症状のある患者はテントか車での診察を行いました。合併症検査の眼科紹介や中断患者への受診勧奨の手紙も見合わせました。

このような試行錯誤の対策がほぼ定着して来た今は、看護師が関わる初診のインタビュや療養指導は、診察や治療に必要な最低限のことを短時間で行うようにし、フットケアは手袋、マスクに加えてフェイスシールドを着用。難聴患者には近くで大きな声を出さないために筆談でコミュニケーションをとるようにしています。さらに糖尿病教室は5力月休講の後、再開しましたが参加人数を8名定員から4名にし、座席の間隔をあげ換気するなど対策に取り組んでいます。

コロナ禍ではアルコール綿も入荷せず必要な量を渡せなかったことがありました。インスリン患者さんには十分な手洗いや、アルコール綿を切って使用するなど指導しましたが、感染対策を強化したい時期だけに切ないエピソードでした。精神的なケアの面では会話を通してアットホームな関係を築きながら支援していましたが、感染拡大後は会話も少なくし、一時期殺伐とした感じになっていました。それもようやく戻ってきたつりがあります。またコロナ鬱という言葉があります。連日のテレビ放送に患者さんが減入ってくる様子を見て待合室では癒し系のDVDをかけるようになりました。そうした環境の整備は患者さんのみならずスタッフにも良い影響があったように思います。まだまだ収束の見えない状態です。これからも距離を保ちつつ、短時間で、効果上がるセルフケアができるような支援をしていきたいものです。

◆編集後記

新型コロナウイルスに負けずに頑張りましょう。  
木村裕美・串田久美

発行所 香川県糖尿病療養指導士看護ネットワークの会  
http://www.qnokai.org